

水泳会

# 創立70周年記念誌

1946 ▶ 2016

群馬県水泳連盟

# 目次

創立70周年を迎えて	群馬県水泳連盟会長	蛭間利雄	3
ご祝辞	群馬県知事	大澤正明	4
ご祝辞	公益財団法人 日本水泳連盟会長	青木剛	5
ご祝辞	公益財団法人 群馬県スポーツ協会会長	児玉三郎	6
群馬県水泳連盟歴代会長	.....		7
オリンピックへの道	.....		9
群馬県水泳連盟のあゆみ			
「創立から60年間の概観」昭和21年～平成17年（60周年記念式典資料より）	.....		19
「10年間の記録」平成18年～平成28年	.....		35
写真で見る栄光の記録 ——上毛スポーツ賞より——（平成18年度～平成27年度）	.....		43
各委員会・部会のあゆみ	.....		51
各市水泳協会のあゆみ	.....		91
資料			
①各大会記録	.....		124
※大会成績（競泳・飛込・水球・OWS）			
※国体・三県・北関東大会成績			
※県選手権獲得者（平成7年～平成27年）			
②海外遠征・海外派遣・日韓スポーツ交流事業	.....		141
③各種表彰	.....		151
④群馬県水泳連盟組織図	.....		158
⑤群馬県水泳連盟 役員・理事・評議員名簿	.....		159
⑥群馬県水泳連盟規約	.....		162
⑦日本水泳連盟登録団体一覧	.....		167
⑧群馬県内の公認プール一覧	.....		168
⑨参考資料（昭和21年～41年当時）	.....		169
編集後記	.....		177

# 創立70周年を迎えて



群馬県水泳連盟  
会長 **蛭間 利雄**

昭和21年9月に県内の水泳を統括する団体として、群馬県水泳連盟が誕生しました。主な事業として、水泳競技の普及振興・指導者養成・選手強化・競技会の運営・水泳場の公認などです。競技としては、競泳・飛込・水球・シンクロナイズドスイミング・マスターズ水泳・OWSスイミングの6競技あり、その時代とともに取り組んで参りました。連盟スタート時は、練習環境の確保に苦労しましたが、昭和36年に前橋市民プールが完成し、本連盟にとっても組織の再編や競技会開催の拡大、他団体との積極的な連携などを推進することが出来ました。

昭和44年には、初めての全国大会である第37回日本高等学校選手権水泳競技を前橋市民プール（競泳・飛込会場）と県営敷島水泳場（水球）で開催し、各競技種目会場において、諸先輩各位の活躍により滞りなく運営することができました。その後、県内各地にスイミングクラブが設立され、国体やインター

ハイ、さらに海外での大会で活躍する選手を多く輩出するまでになりました。

昭和57年に松澤睦氏を会長に迎え、翌年開催の国体、第38回「あかぎ国体・風に向かって走ろう」では各競技種目の強化と活躍により、天皇杯3位、皇后杯5位と過去最高の成績を上げることができました。その後平成8年には、県立敷島公園水泳場が室内50mプールに改修され、年間を通しての長水路練習場を得て、さらなる強化指導や競技会運営が期待されることとなりました。そして、本連盟にとっての悲願でもあったオリンピック選手育成に力を入れ、2008北京（競泳）・2012ロンドン（競泳・OWS）、そして今年開催される、2016リオデジャネイロオリンピック（競泳・水球・OWS）と、三大会連続の出場を果たすことが出来ました。

一方 私たちの生活に目を向けると、少子・高齢化の進展に伴い、人々のスポーツに対する関心はますます高まり、障がい者を含めた各年齢層に応じた水泳競技は、明るく豊かな生活を送る上でも必要不可欠なものとなりました。今後、本連盟の果たす役割は一層拡大し、その重要性を増すことが予想されます。創立70周年記念の年を迎えて、あらためてその使命を自覚し、新しい時代に相応した役割を遂行する上で、加盟団体の皆様と共に一丸となって、水泳界のさらなる発展・振興に向けた取り組みを推進する覚悟です。

今後とも関係皆様の限りない御支援・御協力を心よりお願い申し上げます。

# ご祝辞



群馬県  
知事 **大澤 正明**

このたび、群馬県水泳連盟が創立70周年を迎え、これまでの輝かしい歴史と功績を記した記念誌が発行されますことを心からお祝い申し上げます。

貴連盟は、県内の水泳を統括する団体として昭和21年に創立されて以来、水泳を愛する多くの方々が一致団結し、組織の充実や普及活動、競技力向上のために熱心に取り組まれ、今日の隆盛を築き上げてこられました。歴代会長をはじめ関係の皆様のご御尽力に対しまして深く敬意を表する次第です。

本県水泳の競技力は、近年、高いレベルを維持しており、オリンピックや世界水泳選手権への出場者の輩出をはじめ、多くの選手が全国大会や国際大会において優秀な成績を収めております。本年8月のリオデジャネイロオリンピックでは、本県からも水球2名、競泳1名、オープンウォータースイミング1名が日本代表として出場し、県民に大きな夢と感動を与えてくれました。

また、平成23年からは、水球において未来のトップアスリートの発掘や育成を目指して「ぐんまスーパーキッズプロジェクト」を実施していただいております。このプロジェクトを通じてひとりでも多くの子どもたちが大きな夢を持ち、リオオリンピック水球日本代表の2名の先輩達のように、将来日本を代表し国際舞台等で活躍する選手が多く輩出されることを願っております。

近年はインターネットの普及、本格的な高齢社会の到来など日々の生活環境が大きく変化してきております。さらに、子どもの体力が全体として低下していることや積極的に運動する子とそうでない子の二極化などが指摘されております。このような中、子どもから高齢者まで生涯にわたって誰もが親しめる水泳は、体力の向上、健康の保持増進などの礎となり、地域社会の活性化においても大きな役割を果たすことが期待されます。

県といたしましても、新たに「群馬県スポーツ推進計画」を策定したところであり、これを基に、スポーツに親しむ機会の確保や競技力の向上等の充実に取り組んでまいります。貴連盟の皆様には、本県スポーツの振興や優れた選手の育成、青少年の健全育成に今後ともより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この記念誌の発行にあられた関係者の皆様にご心から敬意を表しますとともに、群馬県水泳連盟の今後益々の御発展を祈念申し上げます。ご祝辞といたします。

# ご祝辞



公益財団法人 日本水泳連盟  
会長 **青木 剛**

群馬県水泳連盟が創立70周年という節目の年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。関係者の皆様に謹んでお祝いを申し上げます。

貴連盟は、昭和21年（1946年）に設立されて以来、70年の永きにわたり地域に根差した水泳競技の普及・発展に努められ、青少年の体力向上・健全育成に大きく貢献してこられました。熱意を持って弛まぬ努力を積み重ねてこられた多くの先達、歴代会長、役員ほか関係者の皆様に心から敬意を表します。

群馬県は、豊かな自然環境や恵まれた立地条件、整備された社会基盤によって、これまで優秀な水泳選手を多数輩出してこられました。数多くの公式・公認競技会が開催される「県立敷島公園水泳場」を中心に、競泳では「群馬県といえば中長距離」と言われるようにタフで粘り強い選手の強化育成に定評があり、水球では数多くの有力選手を育成され、この

度の水球日本代表32年ぶりのオリンピック出場にも大きく貢献されました。

先般のリオデジャネイロ・オリンピックには群馬県輩出の選手が4名出場されました。競泳の内田美希選手、OWSの貴田裕美選手、水球の柳瀬彰良選手と志賀光明選手です。2008年北京大会の内田翔選手から3大会連続でオリンピック日本代表を輩出され、回を追う毎にその人数が増えるという充実ぶりは特筆に値するものです。

4年後の2020年には、念願のオリンピック・パラリンピック競技大会が東京で開催されます。水泳への期待と関心が、より一層高まってきております。日本水泳界は「センターポールに日の丸を、のスローガンのもと、さらに強い「水泳ニッポン」づくりを推進しておりますが、各地域と連携・連動した強化、いわゆる「オールニッポン」による強化推進が何よりも重要と考えております。これからも県内一丸となって、スイミングクラブ、学校、各機関との連携に取り組みられ、北関東の雄・群馬県から更に多くの優秀な選手が育成輩出されますことを大いに期待しております。

結びに、創立70周年という佳節を機に、関係者の皆様が一層結束を固められ、群馬県水泳連盟が益々飛躍することを祈念申しあげ、お祝いの言葉といたします。

## ご祝辞



公益財団法人 群馬県スポーツ協会  
会長 **児玉 三郎**

群馬県水泳連盟の創立70年に及ぶ輝かしい歩みを記念し、ここに70周年記念誌が発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

貴連盟は昭和21年に創立されてから本県の水泳の普及・発展に向け、競技力の向上や指導者の養成等に努められ、水泳界の発展はもとより本県のスポーツ振興と県民の体力向上にも大きく貢献され、数多くの輝かしい足跡を残されてまいりました。これまでの間、組織の拡充・発展に尽くされた歴代会長をはじめ、関係の皆様のご功績に改めて深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

また、群馬県スポーツ協会が競技力向上対策事業として実施している「拠点施設活用事業」や「スーパーキッズプロジェクト」等にも積極的に参画していただき、未来を担う子ども達の選手育成活動にも貴連盟は大きく貢献していただいております。感謝申し上げます。

さて、今年はブラジルのリオデジャネイロでオリンピックが開催されますが、32年ぶりに水球競技がオリンピック出場を決め、柳

瀬彰良選手と志賀光明選手がメンバーに選出されたほか、競泳では内田美希選手が100m自由形、4×100mリレー、4×100mメドレーリレーに出場、オープンウォータースイミングでは貴田裕美選手が出場を決めました。本県出身の選手4名がリオデジャネイロオリンピック出場を決めたことは貴連盟の弛まぬご尽力の賜物であるとともに、群馬県のスポーツ団体として、また群馬県民としても大変誇らしく思います。

群馬県スポーツ協会としましては、平成40年開催となる第83回国民体育大会を招致する活動を開始しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックの8年後に、この2巡目となる国民体育大会が開催され、本県の子ども達や指導者にとって大きな目標ができることとなります。貴連盟におかれましても是非ご支援とご協力をお願いしたいと思います。

近年は急激な少子化に加え、スポーツの多様化、指導者数の減少等により水泳界は勿論、スポーツ界全体を取り巻く環境は大変厳しいものになっておりますが、この度の創立70周年を契機として、2020年東京オリンピック・パラリンピック、さらには本県で開催を要望している第83回国民体育大会に向け、これまでの力強い取り組みを末永く継続・発展されるよう、関係の皆様のご尽力に大きな期待を寄せるところであります。

終わりに、70年の歴史を積み上げてこられた貴連盟各位のご尽力に改めて敬意を表しますとともに、今後益々のご発展を祈念し祝辞といたします。

# 群馬県水泳連盟 歴代会長



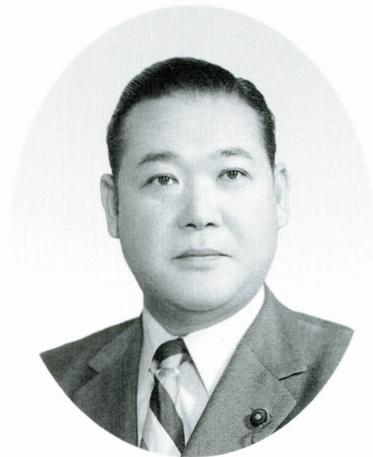
初代会長  
板垣 源一郎  
昭和 21 年～昭和 44 年  
(1946 ～ 1969)



第 2 代会長  
浅香 晃  
昭和 45 年～昭和 52 年  
(1970 ～ 1977)



第 3 代会長  
蛭間 利雄  
昭和 53 年～昭和 56 年  
(1978 ～ 1981)



第 4 代会長  
松澤 睦  
昭和 57 年～平成 13 年  
(1982 ～ 2001)

第 5 代会長  
蛭間 利雄  
平成 14 年～現 在  
(2002 ～ )